

学校 教育 目標	「ひびきあう心 輝く笑顔 ふれあいの丘 斎藤分」					
	(知) 進んで学び、最後まで粘り強く課題に取り組むようにします。 (徳) 豊かな関わりを通して、思いやりの心をもち、自分も人も大切にするようにします。 (体) 運動や体力づくりを通して、心身ともに健やかに生活するようにします。 (公) 進んで人とつながり、地域や社会の一員としての自覚をもつようにします。 (開) 様々な人との関わりを通して、多様な考えにふれ、共生する力を育むようにします。					
学校 概要	創立 68 周年	学校長 小笠原 洋平	副校長 山田 由紀子	2 学期制	一般学級：9	個別支援学級：2
	児童生徒数：238 人		主な関係校：六角橋中学校 栗田谷中学校 松本中学校			

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	六角橋中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
〈問題発見・解決能力〉 〈自分づくりに関する力〉	六角橋中学校 神橋小学校 中丸小学校 神大寺小学校	夢・希望・目標をもち、主体的に行動する子どもを育成する ・年に2回の合同授業研究会では、各教科・領域においてICT機器を活用して、子ども の主体的な学びを引き出す教育活動を展開する。 ・自己選択や決定の場の設定を工夫するなどして、児童・生徒一人ひとりの思いや 考えを大切にしながら、人権教育や児童生徒指導を実施する。 ・児童生徒交流会では、主体的な活動ができるようにする。

中期 取組 目標	○子ども一人ひとりの考えを大切にしながら、課題解決の学びを充実させます。 ・1年目は学習の目的と見通しをもち学ぶことの楽しさを実感できる授業づくりを推進します。 ・2年目は1年目の内容に加え、伝え合う力を育てる授業づくりを推進します。 ・3年目は1・2年目の内容に加え、自分の考えを深め、生活や地域につなぐ授業づくりを推進します。 ○規則正しい生活・安全な行動を心がけ、心も体も健康な学校生活が送れるようにします。 ○地域や保護者とのつながりを意識し、豊かな体験を通して、まちを愛する心を育てます。 ・3年間を通して、自分も他の人も大切に、安心して学校生活を送り、豊かな体験から自己有用感をもつことができるようにしま す。
----------------	--

重点取組分野	具体的取組
知 授業改善	①算数科の授業研究を通して、目的と見通しをもち、学習に主体的に取り組み、自分のやり方がうまくいっているか確かめたりうま くいっていないときは試行錯誤したりして、調整しながら学ぶ学習過程を追究する。 ②どの教科においても問題解決的な学びを目指せるように子どもが問いをもつことができる導入や学習展開を工夫する。 ③自分の考えをもち、友達に伝えたり考えを聞いたりして、自分の考えをより深めたりできるような授業づくりをする。
徳 人権教育	①年間を通した異学年交流を行い、自他の思いや願い、状況を大切に活動することを通して思いやりの気持ちや態度など他 者と協働するための力を育てる。 ②日々の学校生活において、言葉を大切にできるようにする取組を行う。 ③人権尊重の精神を基盤とする授業づくりを行う。
体 健康・安全教育	①体育朝会・集会を実施し、体を動かす楽しさを感じ、運動することを習慣化できるようにする。 ②学習指導要領を振り所に、学びのめあてづくりや発表の場としての運動会を実施する。 ③養護教諭による保健指導や栄養職員による食育指導を行い、心身ともに健やかな子どもを育成する。
公 外国語教育	①担任、英語専科教諭、AETだけではなく、大学生の英語サポーターの協力を得ながら、よりよい英語の授業の構築に努める。 ②子どもたちのアイディアも取り入れた英語キャンプを全校で実施し、英語を使ってアクティビティを楽しむ経験を通して、英語に慣 れ親しむ。 ③オーストラリア姉妹校交流などを通して多様な文化に触れ、互いの文化を尊重する態度を養う。
いじめへの対応	①いじめは重大な人権侵害という認識を学校全体で共有し、毎日の健康観察や定期的に実施するアンケート等を活用したり、SC やSSW等の外部機関と連携をしたりして、いじめの未然防止、早期発見や早期解決に努める。 ②定例・臨時のいじめ防止対策委員会を適切に実施することで、いじめを見逃さずに対応したり、認知案件の経過観察を丁寧に 行ったりして、再発防止に努める。 ③人権週間の活動や子ども会議への参加など、子ども自身が考える未然防止の取組を強化し、自他の思いや願いを大切にしま がら人権意識を高める。
人材育成・ 組織運営(働き方)	①キャリアステージにおける人材育成指標に応じた自主研修の推進や、校外研修に参加しやすい環境を整える。また、校内OJT やメンターチームの活動推進を通し、教職員一人ひとりの資質能力を高める。 ②ICT等も活用しながら迅速な情報の共有化を図ることで、風通しのよい組織をつくり、様々な課題に対して組織的な機動力を発 揮する。 ③ワークライフバランスを各自が意識しながら、働き方改革を推進する。
児童生徒指導	①職員会議や打合せ等で子どもの状況について全職員で共有し、指導方針を明確化する。 ②YPアセスメント、アンケート、面談やスクリーニング等を活用して子どもの実態を把握し、安心して学校生活を送ることができる学 級づくりにつなげていく。 ③斎藤分小スタンダードを基本にどの教職員も同じ基準で児童指導に当たる。また、子どもの思いを大切に、実態や状況に合わ せて毎年スタンダードの見直しを行う。
特別支援教育	①学習マークやミニ黒板、ICT機器などを活用し、ユニバーサルデザインを意識した環境を整える。 ②子どもや保護者と合意形成をしながら特別支援教育を進めたり、SC、SSWや外部機関と連携を図ったりしながら支援のあり方を 振り返り、改善していく。 ③SSTの視点を取り入れた指導を積み重ねることによって、集団での自己のあり方を身に付けることができるようにする。
安全管理	①学校安全計画、学校防災計画、学校保健計画に基づく安心安全な環境づくりに取り組む。 ②インターネットマナー教室の開催など、安全なICTの活用について情報リテラシーを高める。 ③体育の安全面や技能面の教職員研修を行い、指導者の安全への意識や指導力を高める。
地域連携 学校運営協議会	①学校便り、懇談会、学校説明会やホームページを用いて積極的な情報発信に努める。 ②斎藤分小学校の強みや弱みを分析し、学校運営協議会において育てたい子ども像を共有する。 ③職員、保護者、子どもによる学校評価や児童アンケートを実施し、次のカリキュラム・マネジメントに活かしていく。
担当	教務部